

八戸えんぶり開幕

北国に春を呼び込む「八戸えんぶり」が17日、開幕した。新型コロナウイルス禍を乗り越えて3年ぶりの開催。八戸市内外から参加した31のえんぶり組は、午前7時に同市の長者山新羅神

社に集まり、拝殿前で摺りを奉納してから中心街に向かった。

一斉摺りは午前10時半過ぎにスタート。中腰になって地面すれすれまで頭を振る勇壮な太夫や、小づちや扇子を持って踊るかわいらしい子どもたちの姿に、沿道を埋めた多くの観客が魅了された。

（取材班）

3年分、思い込めて

門付けで太夫デビューを飾った木村学人さん



も持ち前の体格とパワーを生かし、地域住民らを喜ばせた。「自分が親方たちを指しているように、後輩のお手本になるような太夫になりたい」と先を見据えている。

木村さん（八学大） 太夫デビュー

摺り、堂々披露

披露。「とにかく頭が痛い」とこぼす一方で、「もつとうまくなりたい」と充実感をにじませた。幼い頃、自宅近くにきていた門付けを見て「やってみたいな」と思い、小学4年でえんぶりを始めた。その後は祝福芸を習得したが、高校受験に専念する木村さん。この日も持ち前の体格とパワーを生かし、地域住民らを喜ばせた。「自分が親方たちを指しているように、後輩のお手本になるような太夫になりたい」と先を見据えている。

○：内丸えんぶり組の門付けで、八戸学院大2年の木村学人さん（20）が太夫デビューを飾った。駅や会社、民家を幾つも回り、力強く大きな摺りを堂々と披露。披露。この日は祝福芸を習得したが、高校受験に専念する木村さん。この日も持ち前の体格とパワーを生かし、地域住民らを喜ばせた。「自分が親方たちを指しているように、後輩のお手本になるような太夫になりたい」と先を見据えている。